



整形外科新シリーズ

—第6回

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科医長

肩関節治療センター 松葉 友幸

腱板断裂の手術について

● 腱板断裂の手術方法

腱板断裂のため日常生活に支障があり、リハビリや投薬で改善しない場合に手術を検討します。手術は腱板断裂の重症度（切れている大きさ、腱の質など）によって異なります。腱板は筋肉で出来ていて、切れてしまふとゴム紐が切れたように奥に引き込まれてしましますし、時間と共に質が悪くなってしまいます。

腱板の切れた断端が元のところに縫い直せるまで残っていれば、残っている腱板に糸をかけて修復する手術を行います。切れてから長い時間が経つておれば、腱板がほとんど残っていない場合は縫い直すことができないため、腕の骨と肩甲骨の骨を切って代わりに金属の関節を入れる手術（リバース型人工肩関節置換術）を行います。今回は腱板を修復する手術を説明します。

● 腱板修復術

腱板を縫い合わせる手術は皮膚を大きく切つて直接損傷部を見て、縫い合わせる方法と皮膚に5mm程の穴を数か所開けて関節鏡を入れて修復する方法があります。

当院では直接見て修復する方法ですが、皮膚切開を3cmで行う独自のやり方（mini-open法）にて行っています。

手術は肩の前方の皮膚を切開し、腱板の層まで達します（図1）。断裂した腱板の周囲は傷んでいます。また術後の肩は動きが悪くなりやすいため、リハビリが大事です。状態によつて4～8週間入院し経過をみています。退院後は車の運転など日常生活を送ることが可能ですが、軽作業が術後3ヶ月から、重労働やスポーツ活動は術後6ヶ月からにしています。

● 手術後

通した糸を縫合し、前方に残っている隙間に糸をかけて縫合します（図3）。

図1

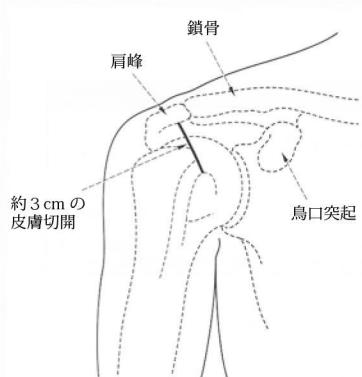


図2

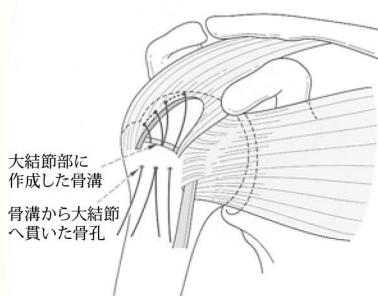


図3

